

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 近畿財務局長

【提出日】 平成27年11月9日

【四半期会計期間】 第73期第2四半期(自平成27年7月1日至平成27年9月30日)

【会社名】 南海辰村建設株式会社

【英訳名】 Nankai Tatsumura Construction Co., Ltd.

【代表者の役職氏名】 取締役社長 猪崎 光一

【本店の所在の場所】 大阪市浪速区難波中三丁目5番19号

【電話番号】 06-6644-7805(ダイヤルイン)

【事務連絡者氏名】 経理部長 塩谷 雅則

【最寄りの連絡場所】 大阪市浪速区難波中三丁目5番19号

【電話番号】 06-6644-7805(ダイヤルイン)

【事務連絡者氏名】 経理部長 塩谷 雅則

【縦覧に供する場所】 南海辰村建設株式会社 東京支店  
(東京都中央区銀座五丁目15番1号)  
南海辰村建設株式会社 横浜営業所  
(神奈川県横浜市中区尾上町三丁目39番地)  
株式会社東京証券取引所  
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

## 第一部 【企業情報】

### 第1 【企業の概況】

#### 1 【主要な経営指標等の推移】

回次		第72期 第2四半期 連結累計期間	第73期 第2四半期 連結累計期間	第72期
会計期間		自 平成26年4月1日 至 平成26年9月30日	自 平成27年4月1日 至 平成27年9月30日	自 平成26年4月1日 至 平成27年3月31日
売上高	(百万円)	15,641	17,887	38,419
経常利益	(百万円)	285	544	949
親会社株主に帰属する 四半期(当期)純利益	(百万円)	268	499	619
四半期包括利益又は包括利益	(百万円)	373	481	994
純資産額	(百万円)	6,798	7,901	7,419
総資産額	(百万円)	32,086	29,819	35,137
1株当たり四半期(当期) 純利益金額	(円)	0.93	1.73	2.15
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益金額	(円)			
自己資本比率	(%)	21.2	26.5	21.1
営業活動による キャッシュ・フロー	(百万円)	2,021	3,753	2,312
投資活動による キャッシュ・フロー	(百万円)	56	6	36
財務活動による キャッシュ・フロー	(百万円)	1,146	3,515	2,147
現金及び現金同等物の 四半期末(期末)残高	(百万円)	2,585	2,127	1,896

回次		第72期 第2四半期 連結会計期間	第73期 第2四半期 連結会計期間
会計期間		自 平成26年7月1日 至 平成26年9月30日	自 平成27年7月1日 至 平成27年9月30日
1株当たり四半期純利益金額	(円)	0.44	1.47

- (注) 1 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
- 2 売上高には、消費税等は含まれておりません。
- 3 「企業結合に関する会計基準」(企業会計基準第21号 平成25年9月13日)等を適用し、第1四半期連結累計期間より、「四半期(当期)純利益」を「親会社株主に帰属する四半期(当期)純利益」としております。
- 4 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

#### 2 【事業の内容】

当第2四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)が営む事業の内容について、重要な変更はありません。

また、主要な関係会社についても異動はありません。

## 第2 【事業の状況】

### 1 【事業等のリスク】

当第2四半期連結累計期間において、当四半期報告書に記載した「事業の状況」、「経理の状況」等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項の発生又は前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」についての重要な変更はありません。

なお、重要事象等は存在していません。

### 2 【経営上の重要な契約等】

当第2四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

### 3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

#### (1)経営成績の分析

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、雇用・所得環境の改善が進み、各種政策効果も重なり、緩やかな回復基調が続いたものの、中国をはじめとした海外経済の下振れにより、景気の先行きは不透明な状況のまま推移いたしました。

この間、建設業界におきましては、労務単価の高止まりと受注競争の激化により、依然として厳しい経営環境が続いてまいりました。

このような状況の下、当社グループでは新たに策定した平成27年度を初年度とする「3カ年経営計画」に基づき、各目標数値達成に向けて取り組んでまいりました。

これらの結果、当第2四半期連結累計期間における売上高は前年同四半期に比べ14.4%増の178億87百万円、営業利益は前年同四半期に比べ67.8%増の5億84百万円、経常利益は前年同四半期に比べ90.8%増の5億44百万円、親会社株主に帰属する四半期純利益は前年同四半期に比べ86.3%増の4億99百万円となりました。

セグメントの業績を示すと、次のとおりであります。

なお、セグメント利益は四半期連結損益計算書における営業利益と対応しております。

#### (建設事業)

売上高は前期繰越工事高が多かったこと等により、前年同四半期に比べ14.6%増の176億85百万円となり、セグメント利益は売上高の増加及び利益率の向上等により、前年同四半期に比べ81.0%増の5億41百万円となりました。

#### (不動産事業)

売上高は前年同四半期に比べ3.5%減の2億1百万円となり、セグメント利益は前年同四半期に比べ7.3%減の59百万円となりました。

#### (2)財政状態の分析

当第2四半期連結会計期間の資産合計は、受取手形・完成工事未収入金等が減少したこと等により、前連結会計年度に比べ53億18百万円減の298億19百万円となりました。

負債合計は、支払手形・工事未払金等及び借入金が増加したこと等により、前連結会計年度に比べ58億円減の219億17百万円となりました。

純資産合計は、親会社株主に帰属する四半期純利益4億99百万円を計上したこと等により、前連結会計年度に比べ4億81百万円増の79億1百万円となりました。

(3) キャッシュ・フローの状況の分析

当第2四半期連結累計期間の連結キャッシュ・フローにつきましては、営業活動によるキャッシュ・フローが37億53百万円のプラス、投資活動によるキャッシュ・フローが6百万円のマイナスとなり、財務活動によるキャッシュ・フローが35億15百万円のマイナスとなりました。

この結果、当第2四半期連結累計期間における現金及び現金同等物は前連結会計年度に比べ2億31百万円増の21億27百万円となりました。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

仕入債務の支払が少なかったこと等により、前年同四半期20億21百万円のプラスから37億53百万円のプラスとなり、17億31百万円の増加となりました。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

有形固定資産の取得による支出が減少したこと等により、前年同四半期56百万円のマイナスから6百万円のマイナスとなり、50百万円の増加となりました。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

借入金が増加したこと等により、前年同四半期11億46百万円のマイナスから35億15百万円のマイナスとなり、23億68百万円の減少となりました。

(4) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第2四半期連結累計期間において、事業上及び財務上の対処すべき課題に重要な変更及び新たに生じた課題はありません。

(5) 研究開発活動

当第2四半期連結累計期間において、特記すべき事項はありません。

### 第3 【提出会社の状況】

#### 1 【株式等の状況】

##### (1) 【株式の総数等】

###### 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	470,000,000
計	470,000,000

###### 【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間末 現在発行数(株) (平成27年9月30日)	提出日現在 発行数(株) (平成27年11月9日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	288,357,304	同左	東京証券取引所 (市場第二部)	単元株式数は1,000株であります。
計	288,357,304	同左		

##### (2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

##### (3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

##### (4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

##### (5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
平成27年9月30日		288,357,304		2,000		

## (6) 【大株主の状況】

平成27年9月30日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式総数に対する 所有株式数の割合(%)
南海電気鉄道株式会社	大阪市中央区難波五丁目1番60号	166,351	57.69
住之江興業株式会社	大阪市住之江区泉一丁目1番71号	11,710	4.06
株式会社大林組	東京都港区港南二丁目15番2号	11,040	3.83
株式会社奥村組	大阪市阿倍野区松崎町二丁目2番2号	8,000	2.77
前田建設工業株式会社	東京都千代田区富士見二丁目10番2号	8,000	2.77
南海ビルサービス株式会社	大阪市中央区難波五丁目1番60号	4,080	1.41
堀江和彦	神奈川県三浦郡	3,935	1.36
南海辰村建設大阪取引先持株会	大阪市浪速区難波中三丁目5番19号	3,454	1.20
株式会社三井住友銀行	東京都千代田区丸の内一丁目1番2号	2,725	0.95
三井住友信託銀行株式会社	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号	2,700	0.94
計		221,995	76.99

## (7) 【議決権の状況】

## 【発行済株式】

平成27年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 62,000		
完全議決権株式(その他)	普通株式 288,181,000	288,181	
単元未満株式	普通株式 114,304		1単元(1,000株)未満の株式
発行済株式総数	288,357,304		
総株主の議決権		288,181	

(注) 1 完全議決権株式(その他)欄の普通株式には、証券保管振替機構名義の株式が85,000株含まれており、議決権の数欄には、同機構名義の完全議決権株式に係る議決権の数85個が含まれております。

2 単元未満株式欄の普通株式には、当社所有の自己株式17株が含まれております。

## 【自己株式等】

平成27年9月30日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) 南海辰村建設株式会社	大阪市浪速区難波中 三丁目5番19号	62,000		62,000	0.02
計		62,000		62,000	0.02

(注) このほか、株主名簿上は当社名義となっておりますが、実質的に所有していない株式が2,000株あります。なお、当該株式数は、「発行済株式」の完全議決権株式(その他)欄の普通株式に含めております。

## 2 【役員の状況】

該当事項はありません。

## 第4 【経理の状況】

### 1 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第64号)に準拠して作成し、「建設業法施行規則」(昭和24年建設省令第14号)に準じて記載しております。

### 2 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期連結会計期間(平成27年7月1日から平成27年9月30日まで)及び第2四半期連結累計期間(平成27年4月1日から平成27年9月30日まで)に係る四半期連結財務諸表について、有限責任 あずさ監査法人による四半期レビューを受けております。



1 【四半期連結財務諸表】

(1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成27年 3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成27年 9月30日)
<b>資産の部</b>		
<b>流動資産</b>		
現金預金	1,896	2,127
受取手形・完成工事未収入金等	21,433	15,764
販売用不動産	375	375
未成工事支出金	200	265
不動産事業支出金	48	48
材料貯蔵品	66	176
繰延税金資産	81	105
その他	792	783
貸倒引当金	70	57
流動資産合計	24,824	19,588
<b>固定資産</b>		
<b>有形固定資産</b>		
建物・構築物（純額）	2,549	2,512
土地	6,724	6,724
その他（純額）	77	66
有形固定資産合計	9,351	9,304
<b>無形固定資産</b>		
投資その他の資産	119	109
破産更生債権等	1,779	1,764
繰延税金資産	128	114
その他	748	742
貸倒引当金	1,813	1,802
投資その他の資産合計	842	817
固定資産合計	10,313	10,230
資産合計	35,137	29,819

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成27年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成27年9月30日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形・工事未払金等	13,493	11,156
短期借入金	9,833	7,052
未成工事受入金	165	466
完成工事補償引当金	33	28
賞与引当金	124	131
その他	458	333
流動負債合計	24,110	19,169
固定負債		
長期借入金	3,022	2,296
退職給付に係る負債	403	275
その他	181	177
固定負債合計	3,607	2,748
負債合計	27,718	21,917
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,000	2,000
資本剰余金	1,703	1,703
利益剰余金	3,591	4,091
自己株式	3	3
株主資本合計	7,292	7,791
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	29	22
退職給付に係る調整累計額	98	86
その他の包括利益累計額合計	127	109
純資産合計	7,419	7,901
負債純資産合計	35,137	29,819

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第2四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年9月30日)
売上高	15,641	17,887
売上原価	14,327	16,339
売上総利益	1,313	1,547
販売費及び一般管理費	1,965	1,963
営業利益	348	584
営業外収益		
受取利息	2	1
受取配当金	3	4
その他	16	17
営業外収益合計	22	23
営業外費用		
支払利息	75	54
その他	10	8
営業外費用合計	85	63
経常利益	285	544
特別利益		
貸倒引当金戻入額	42	-
特別利益合計	42	-
税金等調整前四半期純利益	327	544
法人税、住民税及び事業税	62	53
法人税等調整額	3	8
法人税等合計	59	44
四半期純利益	268	499
親会社株主に帰属する四半期純利益	268	499

【四半期連結包括利益計算書】

【第2四半期連結累計期間】

	(単位：百万円)	
	前第2四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年9月30日)
四半期純利益	268	499
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	16	6
退職給付に係る調整額	88	11
その他の包括利益合計	104	17
四半期包括利益	373	481
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	373	481
非支配株主に係る四半期包括利益	-	-

## (3) 【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年9月30日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前四半期純利益	327	544
減価償却費	75	67
貸倒引当金の増減額(は減少)	142	24
役員退職慰労引当金の増減額(は減少)	3	-
工事損失引当金の増減額(は減少)	141	0
退職給付に係る負債の増減額(は減少)	73	139
受取利息及び受取配当金	6	5
支払利息	75	54
売上債権の増減額(は増加)	6,281	5,685
未成工事支出金の増減額(は増加)	407	64
その他のたな卸資産の増減額(は増加)	2	109
未収入金の増減額(は増加)	4	69
仕入債務の増減額(は減少)	3,539	2,337
未成工事受入金の増減額(は減少)	170	300
未収消費税等の増減額(は増加)	412	55
未払消費税等の増減額(は減少)	203	25
その他	103	86
小計	2,104	3,873
利息及び配当金の受取額	6	5
利息の支払額	67	51
法人税等の支払額	22	74
営業活動によるキャッシュ・フロー	2,021	3,753
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
定期預金の預入による支出	20	-
定期預金の払戻による収入	20	-
有形固定資産の取得による支出	61	8
貸付金の回収による収入	9	5
その他	3	3
投資活動によるキャッシュ・フロー	56	6
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
短期借入金の純増減額(は減少)	650	2,690
長期借入れによる収入	850	-
長期借入金の返済による支出	1,336	817
リース債務の返済による支出	9	8
自己株式の取得による支出	0	0
財務活動によるキャッシュ・フロー	1,146	3,515
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	817	231
現金及び現金同等物の期首残高	1,767	1,896
現金及び現金同等物の四半期末残高	1 2,585	1 2,127

【注記事項】

(会計方針の変更)

「企業結合に関する会計基準」(企業会計基準第21号 平成25年9月13日)、「連結財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第22号 平成25年9月13日)及び「事業分離等に関する会計基準」(企業会計基準第7号 平成25年9月13日)等を、第1四半期連結会計期間から適用し、四半期純利益等の表示の変更を行っております。当該表示の変更を反映させるため、前第2四半期連結累計期間及び前連結会計年度については、四半期連結財務諸表及び連結財務諸表の組替えを行っております。

(四半期連結貸借対照表関係)

保証債務

下記の会社が、顧客に対する前受金について信用保証会社から保証を受けており、この前受金保証について当社が信用保証会社に対して保証を行っております。

前連結会計年度 (平成27年3月31日)		当第2四半期連結会計期間 (平成27年9月30日)	
株式会社サンウッド	152百万円	株式会社東京日商エステム	147百万円
株式会社トラスト・ファイブ	146百万円	明和地所株式会社	74百万円
明和地所株式会社	138百万円	新都市企画株式会社	47百万円
株式会社東京日商エステム	86百万円		
その他2件	25百万円		
計	549百万円	計	269百万円

(四半期連結損益計算書関係)

1 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は、次のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年9月30日)
従業員給料手当	441百万円	450百万円
賞与引当金繰入額	31百万円	40百万円
退職給付費用	71百万円	37百万円
貸倒引当金繰入額	33百万円	24百万円

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

1 現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は、次のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年9月30日)
現金預金勘定	2,605百万円	2,127百万円
預入期間が3ヵ月を超える定期預金	20百万円	
現金及び現金同等物	2,585百万円	2,127百万円

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

前第2四半期連結累計期間(自 平成26年4月1日 至 平成26年9月30日)

(単位：百万円)

	報告セグメント		
	建設事業	不動産事業	計
売上高			
外部顧客への売上高	15,432	209	15,641
セグメント間の内部売上高 又は振替高	4	6	10
計	15,436	215	15,651
セグメント利益	299	64	363

当第2四半期連結累計期間(自 平成27年4月1日 至 平成27年9月30日)

(単位：百万円)

	報告セグメント		
	建設事業	不動産事業	計
売上高			
外部顧客への売上高	17,685	201	17,887
セグメント間の内部売上高 又は振替高	4	6	10
計	17,689	207	17,897
セグメント利益	541	59	601

2 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容  
 (差異調整に関する事項)

(単位：百万円)

利益	前第2四半期連結累計期間 (自 平成26年4月1日 至 平成26年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成27年4月1日 至 平成27年9月30日)
報告セグメント計	363	601
(注) 全社費用	15	17
四半期連結損益計算書の営業利益	348	584

(注) 全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前第2四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年9月30日)
1株当たり四半期純利益金額	0.93円	1.73円
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益金額(百万円)	268	499
普通株主に帰属しない金額(百万円)		
普通株式に係る親会社株主に帰属する 四半期純利益金額(百万円)	268	499
普通株式の期中平均株式数(千株)	288,298	288,295

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2 【その他】

重要な訴訟事件等

当社は、株式会社大覚(以下「大覚」という。)より受注した分譲マンション「大津京ステーションプレイス」の請負代金の残代金1,581百万円の支払を求めて、平成22年1月7日付で大阪地方裁判所に請負代金請求訴訟を提起いたしました。一方、大覚は、本物件には重大な瑕疵が存在するとして、当社に対し総額3,791百万円の損害賠償請求訴訟を提起しておりました。両訴は、裁判上の手続きにより一本化され併合審理されておりましたが、平成25年2月26日大阪地方裁判所において第一審判決の言い渡しがありました。判決では、当社の大覚に対する請負代金の請求に関して、補修費用約10百万円等を除く大部分が認められた一方、大覚の請求は棄却されました。

しかしながら、平成25年3月11日付で、大覚は第一審判決を不服とし、大阪高等裁判所に控訴を提起いたしました。当社といたしましては、引き続き控訴審においても当社の主張が認められるよう対応してまいり所存であります。



## 第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

## 独立監査人の四半期レビュー報告書

平成27年11月6日

南海辰村建設株式会社  
取締役会 御中

有限責任 あずさ監査法人

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 後 藤 研 了

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 今 井 康 好

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている南海辰村建設株式会社の平成27年4月1日から平成28年3月31日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間(平成27年7月1日から平成27年9月30日まで)及び第2四半期連結累計期間(平成27年4月1日から平成27年9月30日まで)に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

### 四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

### 監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、南海辰村建設株式会社及び連結子会社の平成27年9月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 1 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。

2 XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていません。